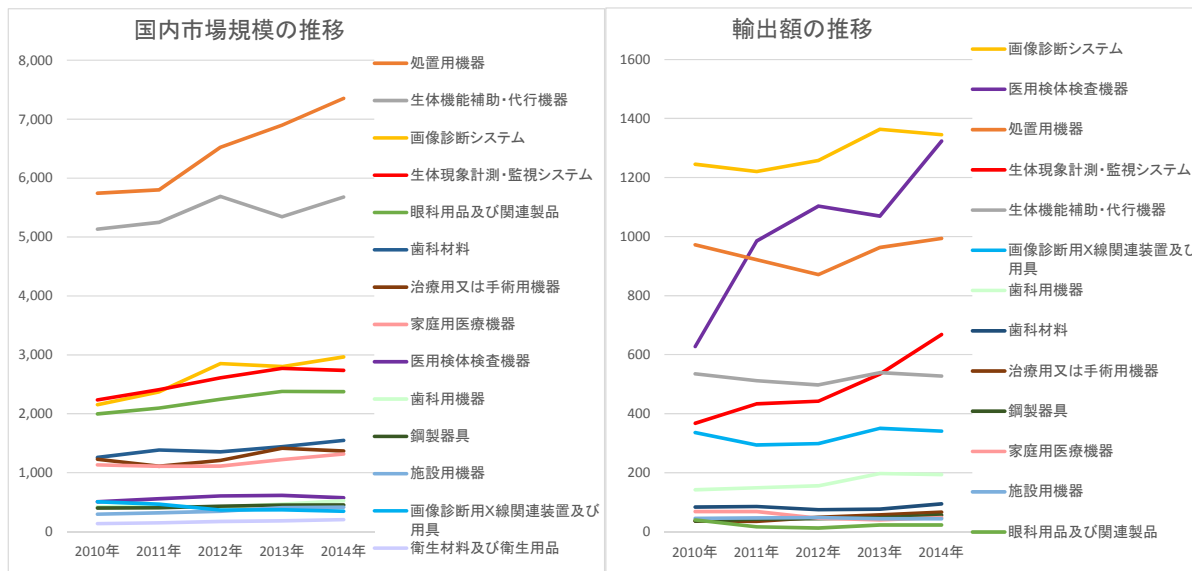


<MDPRO ミニコラム> 医療機器分類ごとの国内市場規模と輸出額：2010～2014年の推移

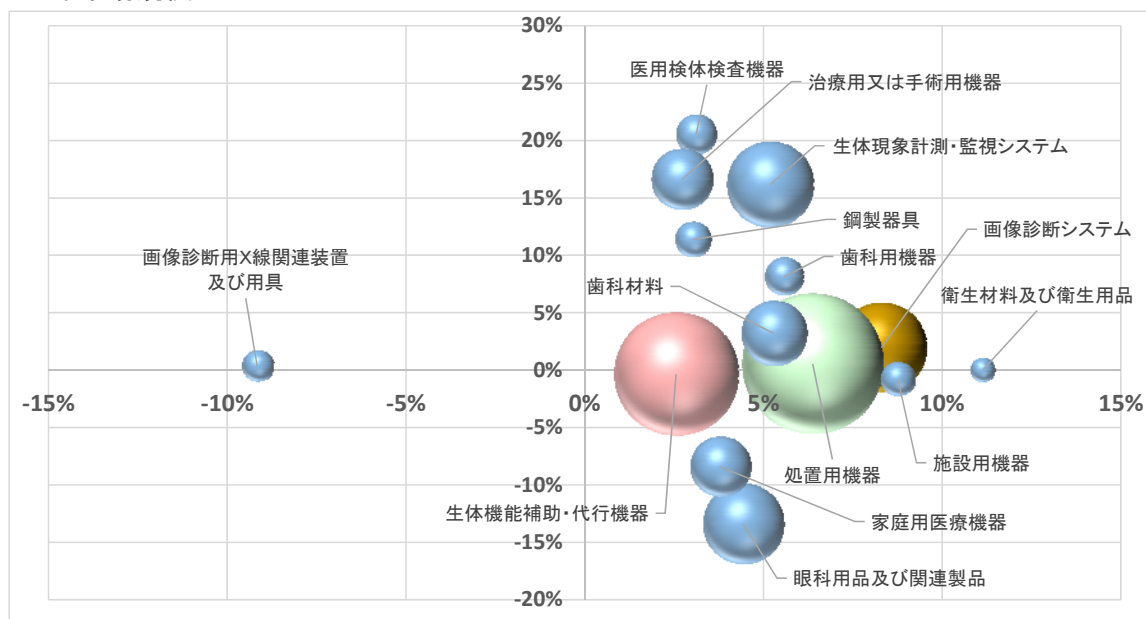
薬事工業生産動態統計の年報値による医療機器分類ごとの国内市場規模(=国内生産+輸入-輸出)と輸出額の推移(2010～2014年)を以下に示します。

単位(億円)



※「衛生材料及び衛生用品」の輸出額はデータがない年度があるため表記せず

国内市場規模は、「画像診断用 X 線関連装置及び用具」を除くすべての医療機器分類で増加しています。「画像診断用 X 線関連装置及び用具」の市場規模減少は、おもに X 線撮影用品（写真フィルム）の生産減少によるものです。輸出額は「画像診断システム」が 2010 年以降 1,200 億円以上を維持しており、最も大きいですが、「医用検体検査機器」と「生体現象計測・監視システム」が大きく伸長しています。(縦軸：輸出額の CAGR、横軸、国内市場規模の CAGR、バブルの大きさ：2014 年市場規模)



健康・医療戦略では 2020 年ごろまで達成すべき成果目標(KPI)として、「国内医療機器市場規模の拡大：3.2 兆円」とともに「輸出額の倍増：約 1 兆円」が掲げられており、輸出の更なる成長が望まれます。